

C-59 ダーツに関する研究(第11報)

—タイトスカートのダーツについての 知見(その3)—

高知女大家政 市川 一夫
村田 菊子
○安岡 真理

1. タイトスカートにおけるダーツの位置及び分量などについての研究を一、二見うけるが、ヒップとウェイストとの周径の差によって決められるダーツ量をどのように配分するかという理論的な解明はなされていない。筆者等は先に(昭和42年10月)ダーツに関する研究(第7報)において、不均等な“ふくらみ”のある場合について一つの方法を示した。

本報ではタイトスカートのダーツ量の配分法について、ズボンのダーツ量配分法の Smith 法が適用できると考え検討を加え、これに筆者等は又別の方法を提案する。

2. Smith 法については、原報にその証明がなかったので理論的に証明し、それを応用してダーツの位置、配分量を決定する。資料は女子大生数10名の水平、垂直両断面体表面曲線を求め、これから腰部の平均体型をきめる。この体型に半径法とでもいうべき Smith 法及び Smith 法に対し直線法とでもいうべき筆者等の方法を適用する。

3. Smith 法は、ある条件の下では理論的によく一致し、ウェイストとヒップとの差の大きい所につままれる量は大きい。つままれる量から得られるダーツ線の長さも、垂直断面の体表面曲線から得られるものとよく一致する。筆者等の方法でも Smith 法同様の結果が得られ、共に着用実験の結果体型によく沿うことを確認した。従